

広葉樹択伐施業勉強会を実施しました

広葉樹施業の最盛期から年数が経過し、施業の考えや調査方法について熟知している職員が減少したことから、「技術の継承」と「技術力の向上」を目的に5月23日～24日の2日間にわたり、局計画課ならびに資源活用課の担当職員を講師に招き勉強会を実施しました。

《5月23日》

広葉樹施業の抗議の前に、PDA（パーソナル・デジタル・アシスト）操作の向上を目的とした講義を行いました。PDAには図面情報が入っており、GPS受信機能により自らの位置を把握することができ、国有林野事業において林況調査等に活用しています。



PDA操作の講義に引き続き、計画課の流域管理調整官による広葉樹施業について講義がありました。「管理経営の指針」及び「天然林施業の手引き」を用い、施業目標と施業方法から伐採後の更新や植生状況による林床型（ブナ型・落葉低木型・ササ型）について説明がありました。

広葉樹施業の講義の次に資源活用課の収穫係長による立木の調査方法等について講義がありました。「東北森林管理局収穫調査規程」に基づき、広葉樹の品質判定や調査時の留意事項について説明がありました。



以上で、1日目のスケジュールが終了しました。

若手からベテランまで幅広い年齢層の職員が受講しました。

特に若手職員は施業体系から用語まで初めて聞くため理解することが難しかったようです。

《5月24日》

2日目は1日目の座学で学んだことを、更に理解を深めるための現地実習です。今回は広葉樹施業のうち、「択伐施業」という抜き伐り法についての実習です。

現地到着後、施業の必要性の可否から林床型の検討、選木方法から収穫調査まで前日の復習を兼ね一連の説明を受けた後、実際の調査を行いました。



最初の作業は実習用プロット内(25m×20m)を輪尺(りんじゃく)で1本1本胸高部の直径測定と樹高を計測し、林分蓄積を知るための調査です。

傾斜のあるプロット内の全ての立木を調査しなければならないので、計測する職員も大変なようでした。



プロット調査を行い林分の蓄積量を把握した後は、稚幼樹の成長具合や配置、伐採後に生じるギャップに対する影響や搬出するための森林作業道のルート等を勘案しながらの調査です。

「収穫調査規程」に基づき、選木したものについて、(ア)樹種、(イ)直径、(ウ)樹高、(エ)品質を調査します。なお、「管理経営の指針」では、択伐施業における伐採材積は林分蓄積量に対し30%以内と定められています。

一連の作業を行い、実習終了後に局講師よりそれぞれ講評が行われました。

最後に計画調整官より2日間の研修を振り返り、

(ア)調査員の搬出ルートの考えがじゅうようとなるので、この方面の知識と技術の研鑽が必要

(イ)多地域から広葉樹の供給要望が出てきていることから、いつでも対応できるよう引き続き勉強してほしい

(ウ)自分自身の復習も兼ね一緒に学ぶことができ、大変有意義な内容の勉強会であったとの、講評をいただき勉強会を終了しました。



今回の勉強会について若手職員からは、

PDA 操作について理解でき、有効活用したい

木の種類の勉強も必要

プロット調査が大変だった

色々な施業方法があることを知った

ポイントを押さえ説明してくれた局講師に感謝します（機会があれば別テーマでまた局講師を招いた勉強会を開催してほしい）

等々の感想があり、今後の知識と技術の習得に意欲が沸いた様子でした。

以上、広葉樹施業の勉強会の様子をお伝えしましたが、今年度、米代西部森林管理署では若手職員の人材育成に重点を置き、OJT 計画と並行し勉強会や講習会を引き続き行う予定です。

実施した際の様子については、その都度ホームページに掲載します。